



< 3日目 >

時間	内容	講師
9:00	講義「自然体験活動の特質」	(一社)Switch Switch 代表理事 (一社)熊川プロジェクト 理事 阪野 真人 氏
10:40	演習「自然体験活動の指導①」 ～インタープリテーションとは～	(一社)をかしや 代表理事 菊間 彰 氏
13:45	演習「自然体験活動の指導②」 ～インタープリテーション実践～	(一社)をかしや 代表理事 菊間 彰 氏
15:00	講義・演習 「自然体験活動の企画・運営①」	(一社)をかしや 代表理事 菊間 彰 氏

< 4日目 >

時間	内容	講師
9:00	講義・演習 「自然体験活動の企画・運営②」	(一社)をかしや 代表理事 菊間 彰 氏
13:15	「認定試験」	国立若狭湾青少年自然の家 企画指導専門職 岡田 泰憲
14:00	閉講式	



◆成果

- ・アンケート結果より参加者全員が、事業に対して満足と回答していることから、自然体験活動に対する指導ならびに企画・運営に関して理解が深まったことが伺える。
- ・海型施設ならではの、水に関する安全管理の内容を入れ込んだことで、参加者が目にしていないフィールドと講義・演習の内容がリンクしたことで、広く安全管理を理解する場面を提供することができた。
- ・自然体験を通じた、子ども達の具体的な事例や成長過程を講義の内容に交えることで、子ども達の成長段階を考慮した指導について再考する機会を設けることができた。
- ・参加者が協同して企画を立てることで、困難さと同時にその価値に気付ける機会を設けることができた。

◆参加者の声

- ・質問の時間は潤沢に取ったほうが理解が深まるのではないかと感じました。
- ・特色ある講師陣で、おもしろい話が聞けました。
- ・講師の方のような多くの経験を積まれた方からのお言葉が心に響くのはもちろんですが、少し上の先輩・自分のロールモデルになる方からのお言葉は、もっと響くものがありました。
- ・自らの指導を考える場面もあり、他のグループの指導が参考になった。

◆事業運営のツボ・工夫・反省

- ・講義形式に偏った講習にならないように、フィールドでの演習を交えながら行うことで、体験を通じた学習が循環する形で実施することができた。参加者からも、「実践や体験が多く、自分の中に落とし込みやすかった」などの好評もいただき、インストラクター講習ならではの、理論と実践の両輪が噛み合う展開にすることができた。
- ・今後の自然体験活動には、「地域」との有機的なつながりを持つことの必要性から、各講師においては、地域での実践者を招聘したことで、「地域」に着目した自然体験活動の展開について知る機会を設けることができた。
- ・本講習は定められた講義内容ではあるものの、事業担当者の想いを形にするために、コンセプトを十分に練った講習会にすることで、最初から最後まで一貫したストーリー性のある、講習会にすることができた。
- ・3泊4日で長期日程だったことや、インストラクター受講資格・取得方法等の困難さが要因となり、想定していた参加者数を確保することが困難であった。今後は、インストラクター概論Ⅱ修了者のみならず、リーダー取得者に対しても継続的な関係性を築いていく必要がある。